

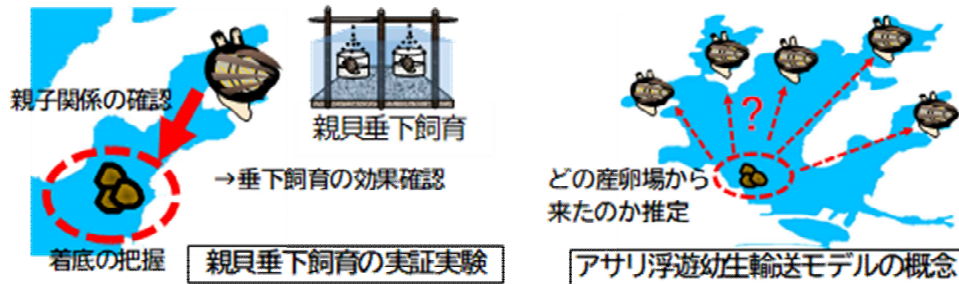
浜名湖のアサリ資源増加に向けた 実証実験と増殖手法の開発

(予算区分 [研究費] 研究期間 2025～2027 年度)

担当：水産・海洋技術研究所浜名湖分場 田中寿臣・北川裕一

【研究の背景とねらい】

- ・浜名湖のアサリ年間漁獲量は 2～6 千トンで推移していましたが、漁業者が自ら漁獲制限を行っているにもかかわらず 2025 年は漁獲なしと壊滅的な状況で、アサリ資源の減少が地域経済に大きく影響を与えています。
- ・令和 3～5 年度に実施した新成長戦略研究では、親アサリを餌の豊富な場所で成熟させて産卵数の増加を促すことができることが明らかになりました。
- ・本研究では、餌の豊富な庄内湾の環境を活かし、①垂下飼育により産卵数を増やし、その卵からふ化した幼生の着底場所を遺伝子を用いて特定する手法の開発や水温等の環境に応じた最適な産卵時期の解明、②シミュレーションモデルによる卵・浮遊幼生の移動経路と稚貝の着底場所の推定を行います。
- ・これらの成果により、垂下飼育による産卵数の増加と親貝の食害防止、被覆網による稚貝、親貝の食害防止等の対策を漁業関係者と協働して実施することで資源回復を目指します。



【これまでに得られた成果】

(2025 年度の成果)

- ・アサリ稚貝を 12.5 kg 採集し、村櫛と山崎地先において、被覆網により適地試験をした結果、成長がよく、肥満度が成熟の指標である 15 以上になる村櫛地先が被覆網の飼育適地であることが判明しました。
- ・また、DNA の遺伝子多型の変化から親子関係を推定するため、地域群差を把握するための遺伝子解析を実施し、本湖と庄内湾で違いがある可能性が判明しました。
- ・アサリ浮遊幼生輸送モデルは 2024 年モデルを作成しました。
- ・モデル精度検証のため、水質連続観測装置を湖内 4 か所へ設置し、クラウドサーバーを介した共同研究機関との観測データ共有システムを導入しました。

【期待される効果】

- ・科学的な根拠に基づいた産卵親貝、着底稚貝の保護策についてアサリ漁業関係者に提示し、研究・普及・行政が連携して実行することで、資源回復の実効性を確保し、漁業関係者が安定した収入を得ることが可能となります。

【今後の計画】

- ・垂下飼育の適地試験を行います。
- ・庄内湾の着底稚貝を採集し、子世代の遺伝子多型に変化が生じるか確認します。
- ・アサリ浮遊幼生輸送モデルは 2025 年、2026 年モデルを作成し、モデルの精度検証と実証実験の結果とモデルの比較検証を行います。

(作成 2026 年 4 月)